

特集

〈事例〉

イベントを通して、社会貢献や センター間の連携を図る

公益社団法人
新庄・最上地域シルバー人材センター
(山形県)

新庄・最上地域SCは、令和7年度に設立40周年を迎えた。令和7年10月25日に開催した「第30回シルバーフェスティバル」では、記念企画として紅白餅の配布や抽選会を実施。前年度を大きく上回る人数が来場する盛況ぶりとなった。バザーの売り上げは全額寄付に充てているといい、センターでは今後もセンターのPRや社会貢献等の観点からシルバーフェスティバルを開催していきたいとしている。

センターのPRを目的に イベントを開催

新庄・最上地域SCは、新庄市、金山町、最上町、舟形町、真室川町、大蔵村、鮭川村、戸沢村で構成される広域センターで、令和7年度に設立40周年を迎えた。

センターでは例年10月に、地域住民との交流やセンターのPR、入会促進などを目的に「シルバーフェスティバル」を行っている。平成4年度から始まったこのイベントは、令和7年度で通算30回目の開催となった。

「第30回シルバーフェスティバル」は、おかげさまで40周年！地域の皆さまに感謝を込めて”をテ



開会のあいさつをする、新庄・最上地域SCの五十嵐正臣理事長



会場内では、各コーナーでさまざまな催しが展開された。中でもバザーコーナーが人気を集めていた

ーマに掲げ、令和7年10月25日の10〜13時に行われた。

会場は、最上広域交流センター

「ゆめりあ」花と緑の交流広場。「ゆめりあ」での開催は、7回目となる。以前は事務所の敷地で行

10:00~	開会式 グラウンドゴルフ大会表彰式
10:15~	泉田保育所「元気太鼓」
10:30~	紅白餅配布★1回目
10:40~	アトラクション【第1部】 歌・踊り
11:00~	豚汁配布(限定200食)
11:30~	アトラクション【第2部】 歌・踊り
12:00~	紅白餅配布★2回目
12:10~	40周年記念豪華大抽選会

入場無料

ついていたが、「ゆめりあ」が新庄駅に直結していることから観光客などの来場を見込んで、会場を移した。会場を変更したことが功を奏し、来場者数は増加したという。

当日は、ステージでのアトラクションなどのほか、センターの事業紹介・展示・体験・バザー・振る舞いコーナーを設け、各コーナーで催しを展開。加えて、尾花沢市SCが出展し、焼き芋の販売を

した。

令和7年度は、例年行っている催しに加え、40周年記念として紅白餅の配布(合計200組)と抽選会も行われた(図表)。

開会式は、五十嵐正臣理事長のあいさつから始まり、山科朝則新庄市長による祝辞、来賓(高橋重美最上町長、小関啓幹金山町副町長)紹介へと続いた。その後は、泉田保育所の園児が「元気太鼓」

図表 「第30回シルバーフェスティバル」開催内容

①ステージ	10:00	開会式 理事長あいさつ、市長祝辞、来賓紹介 泉田保育所による「元気太鼓」演奏
	10:30	★紅白餅の配布 1回目
	10:40	アトラクション1部 会員の歌と踊り(2組)
	11:30	アトラクション2部 会員の歌と踊り(2組)
	12:00 12:10	★紅白餅の配布 2回目 ★豪華大抽選会
②事業紹介 コーナー		センター40年の歩みの紹介 活動写真の掲示 障子張り替え実演(障子班) 説明会の案内
③展示 コーナー		会員個人 つる細工・盆栽・写真など 団体 女性部委員会 手作り手芸の会
④体験 コーナー		ちびっこコーナー ポップコーン ヨーヨー釣り バルーンアート つめ基 輪投げ(新庄市社会福祉協議会協賛) 会員(行政書士)による無料相談
⑤バザー コーナー		商品は会員が提供
⑥振る舞い コーナー	11:00	豚汁(配布200食)
⑦尾花沢市SC (友情出展)		焼き芋販売(屋内)

★印は設立40周年特別企画

を披露し、場を盛り上げた。

会場は、シルバー世代から親子連れまで幅広い年代の来場者で大いににぎわい、輪投げなどを楽しむ子どもの姿も見られた。

最後に、山形県産の米や果物が当たる抽選会が行われ、第30回シルバーフェスティバルは盛況のうちに幕を閉じた。来場者の数は、前年度の実績を大きく上回ったという。

シルバークフェスティバルで他センターとの連携を強化

五十嵐理事長は、シルバーフェスティバルについて「会員数の減少が全国的な課題となる中、当センターでも会員拡大に向けた対策が必要となっています。またセンターを継続して運営していくには、地域の人たちにセンターの活動を

事業紹介コーナーでは、センターのこれまでの歩みや活動の様子を写真やスライドで紹介した



展示コーナーでは、会員が手掛けた盆栽やつる細工などを展示した



家族連れにも足を運んでもらえるよう、子どもが楽しめる催し物も用意した



ています。そこで、シルバー世代だけでなく若い世代にも、センターの目的や役割をPRするために、開催場所や、やり方を変えるなど、試行錯誤しながら、これまでシルバーフェスティバルを続けてきました」と話す。

さらにセンターでは、シルバーフェスティバルを山形県内のセンターが発展していくための「共創

の場」と位置付け、他センターとの連携を図って開催している。第30回シルバーフェスティバルに尾花沢市SCが出席したのも、こうした理由からだ。

五十嵐理事長は「シルバーフェスティバルは、センター同士のつながりを強化できる機会であると捉えています。山形県のセンター全体が元気に活動していけるよう

に、これからも他センターと協力していければと考えています」と話す。

社会貢献活動として バザーの売上金を寄付

シルバーフェスティバルでは、会員が衣類や食器、日用品などを持ち寄り、バザーを開催している。バザーは毎年好評で、すぐに商品

振る舞いコーナーでは、豚汁200食を配布した(写真左)。また、尾花沢市SCが出席し、焼き芋を販売(写真右)



アトラクションとして、会員が自慢の歌や踊りを披露



設立40周年を記念して、紅白餅の配布(写真上)や抽選会(写真下)が行われた



が売り切れるほどだという。バザーの売上金は、社会貢献活動の一環として、全額を寄付している。第30回シルバーフェスティバルのバザーの売り上げは4万4600円(尾花沢市SCによる焼き芋販売の売上金の一部を含む)で、新庄市社会福祉協議会と真室川町社会福祉協議会に2万2300

0円ずつ寄付した。五十嵐理事長は「シルバーフェスティバルの実施には、費用が毎年50万円ほどかかりますが、それでもシルバーフェスティバルを開催する価値はあると思っています。令和7年度のシルバーフェスティバルには、2382人もの来場者があったことから、その影響力

は大きいと感じています。今後、センターのPR、他センターとの連携、社会貢献を進められるよう、シルバーフェスティバル開催に取り組みたいと考えています」と今後の展望を語った。
(川上和義)

事業運営状況 (令和2年度～令和6年度)

年度	会員数			粗入会率 %	就業実人員 (延人員) (人)	就業率 %	受注件数 件	契約金額 千円	公民比 %
	男性 人	女性 人	全体 人						
令和2	416	234	650	2.1	592 (73,906)	91.1	5,109	345,662	19.9/80.1
3	412	238	650	2.1	581 (73,815)	89.4	4,951	343,991	21.1/78.9
4	404	223	627	2.0	544 (67,337)	86.8	3,930	330,947	25.2/74.8
5	392	211	603	2.0	529 (58,793)	87.7	3,222	295,325	28.5/71.5
6	392	212	604	2.0	522 (60,055)	86.4	3,540	313,592	27.9/72.1

※受注件数、就業実人員、契約金額は請負・委任と労働者派遣事業を合計した数値
 ※就業実人員は請負・委任と労働者派遣事業を対象 ※就業実人員は労働者派遣事業の教育訓練受講を含む
 ※令和5年度以降は性別未回答の会員がいるため、会員数の男女計と全体は必ずしも一致しない